

第三期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会
（第8回）議事要録

- 日時 平成26年10月6日（月）19時～20時50分
- 場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
- 出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、高橋健一委員、早川峻委員、高橋豊委員、
村井寿夫委員、塩澤誠一郎委員、藻谷征子委員、押元正樹委員、興梠信子委員、
木村文委員、千綿澄子委員、平田昭虎委員、山崎君枝委員、越智征夫委員、高石優委員、
島森和子委員、新垣俊彦委員、木村浩委員
事務局（馬場主査他）
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）、傍聴者2名
- 欠席 島英二委員、渡部直子委員、岡田敬一委員、金子和雄委員
- 配布資料 1. 新武蔵野クリーンセンター（仮称）外観の色彩について、2. アーツ前橋概要、
3. 仮囲いアートワークショップ参加者アンケート集計結果、
4. 煙突の足場について、5. 施設・周辺協議会（第7回）議事要録

1. 新施設の外観デザインについて

- ・資料1「新武蔵野クリーンセンター（仮称）外観の色彩について」に基づき、工事工程、外観の色彩、緑化計画、東京都景観条例について事務局より説明。
- ・委員 色の検討というのは非常に難しい。屋内で照明のもとで見ると、屋外での印象とは異なるため、最終的には外で再確認したほうがよいかと思う。また、なぜブラケット（取付金具）の色は1色で、変更できないのか。ルーバーの色と同じほうがよいのではないか。
- ・副会長 ルーバーのブラケットの色は下地と合わせるのが定石になる。ルーバーと同じ色だと、ブラケットの存在感が出てしまう。ルーバーの美しさを出すために、できるだけブラケットの存在感を消すのが基本的な考え方だ。下地と全く同じにはならないだろうが、モックアップ（サンプル品）等で確認しながら適切な色を検討していくことになる。
- ・委員 煙突部分の下地塗装色はN90という明るい色になっているが、工場棟の高さまでは、工場棟外壁下地と同色のN80とした方が統一感が生まれるのではないか。
また、植栽計画について、カツラやケヤキなどは街路樹、公園などでよく見られる樹木であるが、クヌギやコナラなどのほうが、夏には昆虫が来るので子どもも喜ぶし、雑木林のイメージに近いと考える。
- ・副会長 煙突も間近で見ると存在感があるため、高さ20mの部分で色の切り替えがあると、デザイン的にはかなり違和感が出てきてしまうだろう。そのため、既存の色と近い色で統一した方が違和感がないと考えている。
- ・委員 植栽計画については、高さ10m程度であまり根が張らない樹木であれば調整できるだろう。大きな木が景観に合うと考えてケヤキを案としているが、雑木林のイメージでクヌギやコナラとしてもよいと考えており、今後意見をいただきたい。
- ・会長 煙突の周りは車が出入りする部分になるため、安全配慮が必要。虫を捕りに行くのは危険かもしれない。ただ、たとえば煙突周りのシンボリックな樹木は子どもたちが選定するなども

考えられるだろう。

- **委員** カツラは比較的大きくなるが、四中のカツラは地下水位などに影響されて一定以上は伸びずに途中から先が枯れてしまっている。街路樹などではファッション的に使うが、元々雑木林の構成樹種ではないため、雑木林として見せたいのであれば向いていない。井の頭公園ではクヌギ、コナラ、イヌシデなどがある。樹種の選定はデザインの方針による。敷地北側を東西に雑木の中をそぞろ歩きをするようなイメージとするなら、植え込みを少し曲線を持たせた形でつなげ、株立ちの樹木を配置する等、幹線を見せるようなデザインも考えられる。または既存樹木を活かし、その間を埋めるようにランダムに樹木を植えることも考えられる。下草もクマザサなどをきめ細かくあしらえば、ここを歩くのが楽しくなる感じがする。全体のあり方を協議会で考えたうえで、詳細は事業者にデザインしてもらえばよいと思う。
- **委員** 植栽計画はまだ検討の時間がある。委員の皆さんの意見を取り入れながら調整していきたい。
- **委員** 工場棟東側壁面は地面上までルーバーを取り付けることになるかと思うが、子どもが登ったりする危険性もあるため、安全面についてどのように考えているか聞きたい。後から手前に柵ができてしまうようなことは避けてほしい。
- **副会長** 基本的に事業者提案とはなるが、足がかり等がないように下地を工夫する等の配慮は必要と考える。下までルーバーがある例はいろいろある。
- **委員** ルーバーの色はとてもきれいな色だとは思いますが、印刷物やモックアップ、映像等によって色が異なっており、印象が異なる。最終的にはお任せするしかないが、色が暗い印象であるため、もう少し明るい色はないのか。
- **委員** 一度、外でルーバーを見て頂く機会を設けたい。外で見るとかなり明るく見える。製品自体も焼き物であるため、全て均一な色とはならない。
- **委員** 常緑樹を植える必要はないのか。
- **委員** 樹木の選定において常緑樹という選択肢もある。現施設ではパッカー車が見えないようにという意味もあり、常緑樹を植えているが、新施設は開放的に見せる施設であるため、落葉樹でもよいと思っている。
- **委員** 常緑樹と落葉樹を混ぜるなら、地域性のあるシラカシもいいし、ヤブツバキもよいが、配植の仕方が大事だと思う。都心のビルでよくあるように大きなシラカシを何本も植えるのではなく、もう少し小さなものを地道に植えていくのがよい感じがする。
- **委員** ルーバーの色は、コーヒー色から変えることは難しいという印象を受けた。根拠である東京都景観条例の対象高さは45m以上であるため、今回対象となるのは煙突だけで、工場棟については別の色合いでもよいと理解している。コーヒー色は濃く感じるため、もう少し明るい色のほうがよいような感じがする。
- **会長** 基本的に煙突の色を先に決定しなければならないが、建物側にも影響があるため、建物側はグラデーションを入れる案がでてきた。煙突の色は都の景観条例で縛られているが、工場棟も含めて当初に事業者が提案した色より明るくしているという説明だった。
- **委員** ルーバーは焼き物との事だが、水が染み込むことはないか。壁面の緑や土と接する部分では水分の乾きが悪くカビが生えることを懸念している。また、衝撃で壊れたり割れたりする心配はないか。
- **委員** 水の染み込みについて、カビが生えるような事例は聞いたことがないが、問題がないか

調べてみたい。また、いたずらなどで衝撃を受けた場合は、セラミックなので割れてしまう。先ほどのルーバーの下部処理の意見も含めて、管理方法は検討する。

- **委員** ルーバーをグラデーションのデザインとすることはとても良い案だと思うが、コーヒー色を基本としながら、どのように赤系のルーバーを混ぜていくのか、また2種類の大きさのルーバーをどのように使用するのか、この2点について確認したい。
- **副会長** たとえば、子どもたちが参加して色を選んでいくという案も考えられるだろう。予めある程度のルールづけをし、全体の調和の中で問題ない程度の幅を持たせながら選んでもらうと、将来この施設を担っていく子どもたちが参加することができ、施設が将来に渡って根付いていけるのではないかと思う。

大きさについては、事業者提案をベースとしながら、東側の色種が多い部分はできる限り均質に、西側ではランダムに、若干のグラデーションをかけながら調整することになるだろう。

- **委員** 歩道の横断勾配は1%と記載されているが、できる限りフラットにして頂きたい。インターロッキングブロックも経年によって目地がガタガタになるため、車いす用の製品もあるが、インターロッキングブロックでなくもっとフラットなものでもよいかもしれない。また、通路の下にヘデラを植えているが、雨がかからないところは将来的に汚く見えてしまうので、すっぱりと舗装したほうがよいかもしれない。ツル系の植物は基本的にヘデラを検討しているようだが、季節により色が変わる夏ヅタなどをアクセントで部分的に取り入れると季節感も出てよいのではないか。

- **委員** 煙突が、既存煙突のもともとの白いイメージから濃い色のイメージになってしまわないか心配である。工場棟の煙突側も暗いイメージになるような気がする。
- **副会長** どうしても東京都景観条例の色がベースになるだろうが、南側と東側は界限性があるため、明るく、色彩豊かにという考え方で、一方の煙突とエコプラザ側については元々の雑木林のイメージで、まだエコプラザがどのような施設になるか決まっていないため、できる限りニュートラルなイメージでデザインしてはどうかということだ。暗いというよりは落ち着いたイメージと言えらると思う。外で見るとそれほど暗くない色だと確認している。

- **委員** 立面図において、屋上に出ているものが何なのか、どの程度目立つのか、南側や北側からどの程度見えるのか教えて頂きたい。また、この上に太陽光パネルが乗っかるのか。

- **委員** 屋上に出ているものは、高さ2m程の“ハト小屋”（設備スペース）である。最低限に納めるよう努力したが、これだけは出てしまっている。色はコンクリート打ち放しの色となる。太陽光パネルはこの上ではなく、別の位置に設置する。

- **委員** 外壁を上には伸ばして隠してはどうか。

- **委員** 北側だけでも、この壁面を緑化できないだろうか。

- **委員** 成蹊大学の図書館で、同様の屋上のハト小屋の壁面を緑化している事例があり、ジュートマットのようなものを張り排水装置を付けた最新のものだが、上手くいっていない。「イタビカズラ」を張り付ける等、素朴な方法で緑化できるとよいと思う。

- **委員** エレベーターの機械室も最近あまり屋上に出っ張らないタイプが多い。屋上部はなるべく平らになるように工夫してほしい。

- **会長** 壁面を伸ばすのは非常にコストがかかる話になろう。屋上の件は、全体の緑化計画も合わせて意見交換し、検討していけばよいだろう。

ルーバーの基本色は提案のコーヒー色で了解することによろしいか。事務局には、一度、屋外

の太陽光のもとでルーバーを見る機会を設けてほしい。

2. その他

- ・資料2「アーツ前橋概要」に基づき、アーツ前橋について水谷副会長より説明。
- ・資料3「仮囲いアートワークショップ参加者アンケート集計結果」に基づき、アンケート集計結果について事務局より説明。
- ・**委員** アンケート結果では、小学校1～3年生の参加人数とこれまでクリーンセンターに来たことがないと答えた人数が近い数値だ。これは小学校のクリーンセンターの社会科見学が4年生から行われているためだろう。よって、このような低学年の児童の参加を促すイベントを開催し、クリーンセンターを知ってもらうことは良いと思う。できあがった作品もすばらしく、大変良かった。
- ・資料4「煙突の足場について」（前回資料の拡大版）を再提示して事務局より説明。
- ・**委員** 前回の見学会の際に、煙突に足場が付くととてもインパクトがあるだろうと感じたが、実際にその通りだと思った。足場ができる前に、煙突にまつわる何らかの仕掛けをして、多くの人にこのプロジェクトを知ってもらう機会にできればよかったのではないかと思った。ただ、足場が付いた煙突の見た目は思ったほど変ではなく安心した。

以上